

開講科目名 Course	租税法研究演習 1 年（奥川先生） / Seminar on Tax Law
時間割コード Course Code	18015
開講所属 Course Offered by	法学研究科修士課程 /
開始年度・学期 Start Year・Semester	2022年度 / Academic Year 前期
曜限 Day, Period	土 / Sat 2
開講区分 semester offered	通年 / .
単位数 Credits	4.0
学年 Year	1
主担当教員 Main Instructor	奥川 哲也
科目区分 Course Group	研究演習科目
教室 Classroom	5 1 演習室
講義形式 Lecture Style	演習科目
担当教員名 Instructor （担当教員所属名 Affiliation）	奥川 哲也（法学研究科修士課程）
授業の目標	絶えず研鑽を図ること、活発なディスカッションをすること！
授業の概要	<p>【ゼミの概要】</p> <p>租税法研究演習1年の講義は、税理士試験の免除資格（税理士法に定める「税法に属する科目等」に関する研究で国税審議会から認定を受ける）を得るにふさわしい租税法（国際租税法を含む）の基礎の習得から修士論文の作成までにわたり、判例研究、各種論文研究及びこれらの発表・討議並びに研究テーマの選定及び研究発表・討議を行う。</p> <p>【ゼミの内容】</p> <p>2年間を通じて、まずは租税法解釈の基礎固めと数度の小論文の作成をスタートとし、その後のゼミの場での発表・討議を通じてその理解を深め、最終的に修士論文の完成をゴールとする。</p>
評価方法	出席とゼミ受講姿勢による。
教員の指導に従わない以外の事由による失格基準	特になし。
授業計画	<p>【前期】</p> <p>4月中は関岡教授による他ゼミとの合同ゼミ（講義）とし、論文作成に当たっての基礎事項を学ぶとともに各自テキスト及び論文の書き方に関する参考書を通読しておく。</p> <p>5月以降は、テキストを基に租税法の解釈の基礎及び小問題に対する小論文の作成とディスカッションを中心にゼミを行う。</p> <p>【後期】</p> <p>後期は前期よりもう少しレベルアップし、引き続き小論文の作成を行うこととするが、自身がテーマを選んだうえで作成し、深度ある議論ができるような内容とする。</p> <p>11月ないし12月から期末にかけては修士論文のテーマ選定を固め、早めに関連する資料の収集及びその読み込みを行う。</p>
テキスト	酒井克彦『レクチャー租税法解釈入門』（弘文堂・2015年）

参考書	<p>【論文の書き方等に関する参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・井田良他2名『法を学ぶ人のための文章作法〔第2版〕』（有斐閣・2019年） ・田高寛貴他2名『リーガル・リサーチ＆サポート〔第2版〕』（有斐閣・2019年） ・木山泰嗣『LIVE講義法律文書作成のためのリサーチ術』（Lexis Nexis・2015年） ・近江幸治『学術論文の作法〔第3版〕』（成文堂・2022年） <p>【法令解釈に関する参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・林修三『法令作成の常識（第2版）』（日本評論社・1975年） ・林修三『法令解釈の常識（第2版）』（日本評論社・1975年） ・林修三『法令用語の常識（第3版）』（日本評論社・1975年） ・吉田利宏『新 法令解釈・作成の常識』（日本評論社・2017年） ・吉田利宏『新 法令用語の常識』（日本評論社・2014年） ・法令執務・法令用語研究会『条文の読み方〔第2版〕』（有斐閣・2021年） ・荒井勇『税法解釈の常識 税法条文の読み方教室』（税務研究会出版局・1975年） ・泉美之松『これでわかる税法条文の読み方〔改訂〕』（東京教育情報センター・1998年） ・青木丈『税法で読み解く！法令用語と立法の基礎知識』（税務経理協会・2013年） ・青木丈『租税法令の読み方書き方講座』（税務経理協会・2018年） ・長野秀幸『基礎からわかる法令用語』（学陽書房・2015年） ・伊藤義一『税法の読み方 判例の見方〔改訂第3版〕』（TKC出版・2014年） ・西村美智子ほか『税法条文の読み方』（中央経済社・2013年） <p>【租税法の参考書】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・金子宏『租税法（第24版）』（弘文堂・2021年） ・中里実他3名『租税判例百選（第7版）』（有斐閣・2021年） ・酒井克彦『フォローアップ租税法』（財経詳報社・2010年） ・酒井克彦『ステップアップ租税法』（財経詳報社・2010年） <p>その他必要に応じて指示する</p>
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等	含まない
アクティブラーニング、ディスカッション、実習等の内容	
実務経験のある担当教員による授業	該当しない
担当教員の実務経験を活かした授業の内容	
質問への対応方法	口頭又はKintoneによる。
フィードバックの方法	口頭又はKintoneによる。
予習・復習等、準備学習の内容及び時間	ゼミの受講に当たっては、予習及び復習をすること。
使用言語	日本語
SDGs 17の目標（1～10）	
SDGs 17の目標（11～17）	
PROGリテラシーの要素	
PROGコンピテンシーの要素	